

月報 岡崎の教育



7月号

平成3年7月1日
発行／編集
岡崎市教育委員会

「先生、きゅうりの赤ちゃんがなつてる」「はつか大根が、大きくなつたよ」

朝一番の陽を受けて
ランドセルを背負つたまま

無心にのぞきこむ 小さな背中

土作り 種まき 水やり
てのひらが覚えて いる感動

陽の匂い 土の感触

からだじゅうが自然のなかにとけこむ

「おいしい」
「噛んでると 甘いね」

美しく揃えられ 並べられた
スーパー・マーケットの野菜群のような
らくらく買えるおいしさでない
天然の 取れたての味をこそ知れ
土まみれの いびつな その作物の

(太陽の味)



(成長を見守る目 一 矢作東小)

一 教育隨想

「思ひ」のままに



岡崎市教育委員 太田清美

先日、近くの停留所でバスを待つていたら、顔見知りの女将さんが店から出てきて四方山話をしているうち、私がまだ現職の教師だと思ってか娘さんの話になつた。

「うちの娘は今、中学二年ですが、朝起きると掃除は一人でてくれるし、学校から帰ると、夕方には食事の仕度から後片付け、それに洗濯までしてくれます。学校では、運動や勉強のできる子は毎週

のよう朝礼で表彰されますが、うちのような子は褒めてくれないのかねえ。」
ごく自然に、冗談混じりで話された。

私も現職の頃、そんな子のことを大事にしたいと考えていたので、ハッとして、「いい話ですねえ」と感心しているところへバスが来て、立ち去つた。

学校では、知・徳・体の調和のとれた人間形成を掲げながら、勉強は一日数時

間、その上補習までし、運動は体育の時間は勿論、部活動で汗を流し、やり過ぎではないかと言われるほど頑張っている。

ところが、人間としての生き方、心のあり方といつた徳の面では、知や体のそれと比べてどれほど心を揺さぶるような活動や体験がなされているか。人間として立派な生き方をしている子をどれだけ見つけ出す努力をし、励まし、称えていけるだろうか。

以前、中学三年間、毎日曜日欠かさず

助け合い農園に通い、奉仕活動をしていた感心な生徒を見つけて表彰したり、隠れた善行、美談を知つて、朝礼で称えた。それだけに今、学校教育ではそうした体験や感動の場面を意図的計画的に組み込んで心を振り動かす場を作つたり、一年に一遍くらいは心にしみ入るような、している子がいっぱいいるものである。

先ほどのバス停でのお母さんの話のよ

う方向のみ一生懸命になつても、例えば十の隔たりを五まで接近させることはできない。先生方は子供を理解する努力はよくやっている。しかし、子供を理解することはできないと縮まらない。

そんな時、先生の生い立ちや子供の頃のこと、家族のこと、長所や短所、失敗談などを話してやると、隔たりは一遍に縮められるものである。教師が一人ひとりを知りつくし、子供が先生を理解した時、信頼は一気に深まる。その上、怪談、奇談、七不思議の類の話ができたら、子供は一遍に先生に惹きつけられる。

ところで、昔は貧乏が共通して生活の根底にあつたが、物は豊かになり、科学技術の進歩で世の中はすっかり変わった。

日常生活の中で、辛抱とか我慢、ひもじさ、節約、分かち合い、看病、手伝いと

いった体験もすっかり薄くなつてしまつた。

例えれば、学校生活においては、授業中

に体の不調を訴え、保健室で休んだり、

早退が多くなつたりしてはいないか。

由のはつきりしていない欠席が継続的に

続いているのではないか。また、特定の曜日、

教科の欠席、遅刻が増えではないか。

休み時間など仲間から外れてはいない

か。グループづくりの際、ひとりぼつ

自立を願つて

学校保健指導員 野村淳子



登校拒否問題は、学校も専門機関の手をかりながら、対策や対応に努力しているにもかかわらず、その数は増加の一途をたどり、状態も多岐にわたつていている。登校拒否も他の病気と同じように早期発見が大切だと言われている。登校拒否は多くの場合、何らかの前兆を伴つてゐる。心理的、情緒的に不安定な状態の中で登校を続けている時がある。この時に子供が態度や表情を通して訴えてくるサインを見逃さないことが、登校拒否を早期に発見するための重要なポイントとなる。

例えれば、学校生活においては、授業中に体の不調を訴え、保健室で休んだり、早退が多くなつたりしてはいないか。由のはつきりしていない欠席が継続的に続いているのではないか。また、特定の曜日、教科の欠席、遅刻が増えではないか。休み時間など仲間から外れてはいないか。グループづくりの際、ひとりぼつ

ふるさとシリーズ

この人に聞く



岡崎グランドボッブス

小森 国生氏

六月のある午後、岡崎グランドボップス団長の小森氏宅をお訪ねする。

まず、部屋に置かれた大きなタンノイのスピーカーに驚かされる。それを管球式のアンプで鳴らされている。氏の趣味の深さを感じた。明治大学での専攻は、音楽ではなく電気関係のこと。電気を専攻されていてどうして「岡崎グランドボップス」なのお尋ねした。

「大学では、専門を生かして、あちこちの演奏会の録音を担当していました。ところが、大学を卒業して岡崎へ来ると、録音するものがいなかった。すると、録音するかが問題なんですよ。

それなら、自分たちで、演奏する方を作ろうということになつたんです。人集めには大変苦労をされ、愛知造形社の深谷氏と二人で、大学生を中心におけストラ作りをされたと聞く。

一口にオーケストラといつてもいろいろあるが、めざす音作りは……。

「ボールモーリア流のオーケストラスタイルをめざしました。昭和四十八年頃のことです。第一回の演奏会は『翼をください』で知られる赤い鳥とのジョイントコンサートでした。

まだ二十代の若さでこの行動力である。現在のオーケストラのメンバーは、四十人くらい。十五歳から、五十七歳まで年齢は相当開いていること。児童・生徒でも四十人集まれば、まとめるのは難しい。まして、これだけ年齢の離れた集団をまとめるのは、大変ではないか。

「大人が相手ですから、音楽的に高いものを感じそうとしているんだらけてしまいます。共通の目的意識を持たせることが必要ですね。また、演奏会が終わった後が大切で、ここで気を抜くと後が続かなくなってしまいます。」

本職は、フタバ産業でマフラー作りをしてみえるとのことであるが、マフラーは、エンジンの音を消すためのもの。音を出すオーケストラとは逆の仕事では、と素人くさい質問をしてみる。

「マフラーというのは、音を消せばいいというもののじやないんです。いかにいい音を出すかが問題なんですね。マフ

ラーの音を聞くためにヨーロッパまで行つてきました。」

名古屋のデザイン博では、岡崎代表として、オリジナル曲「ラブソディー・イン・岡崎」を演奏されたと聞く。

最後に「あなたにとつて音楽とは」と、どこかで聞いたような質問である。

「心の潤滑油ですね。」

すばらしい演奏に時を忘れ、取材の手を止めて聴き入るひとときであった。

住 所 岡崎市稻熊町中屋敷四十の一
生年月日 昭和二十三年一月三十一日



ラの音を聞くためにヨーロッパまで行つてました。」

名古屋のデザイン博では、岡崎代表として、オリジナル曲「ラブソディー・イン・岡崎」を演奏されたと聞く。

最後に「あなたにとつて音楽とは」と、どこかで聞いたような質問である。

「心の潤滑油ですね。」

すばらしい演奏に時を忘れ、取材の手を止めて聴き入るひとときであった。

理由を十分に吟味する必要がある。

初期の混乱している時期には、共感的、受容的な態度で接することが大切である。それが頭痛、腹痛といった身体症状として表れることがあるので、届け出された人の話にじっくり耳を傾け、その心情や葛藤を受けとめてやることである。教師は、こういった場面で、指導を前面に出してしまいがちであるので気をつけたいものである。

初期の対応が大切であるだけに、本人とかかわっている者から情報を収集することが必要である。収集した資料や情報は、担任や養護教諭のみが抱えこまずに、必ず多くの目で見て、総合的に、多面的にとらえたい。ただ学校へ復帰させることを目的とするのみでなく、自立する子供を育てる教師の姿勢が大切である。



▲ 絵本の国（連尺小）

天井には似顔絵の万国旗、ここへ来るのが楽しくなるよう工夫された図書室。高学年も利用する。

子供の数は、年々減少の一途をたどっている。「一人の女性が一生の間に産む子供の数の平均は、一・五三人（厚生省）とも言われ、小・中学校では「余裕教室」がそここの学校に生じている。

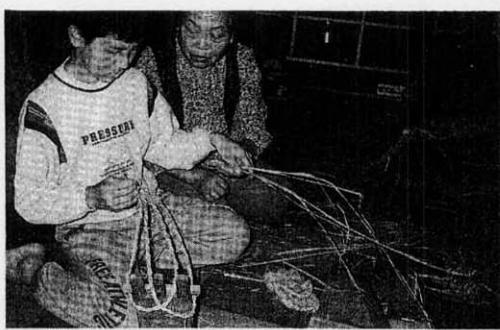
「余裕教室」とは、子供の数の減少によって生じる空いた教室であり、「空き教室」とか、「転用可教室」とも言われている。

岡崎市内の小・中学校合わせて五十八校中、二十一校に三教室以上の「余裕教室」があり、その数は一〇三教室にものぼる。（平成二年五月現在）特に市内中心部の学校に多く見られ、今後もこの数は増加することが予想される。では、これらの「余裕教室」はどのように活用されているのだろうか。



▲ 岩津の里（岩津小）

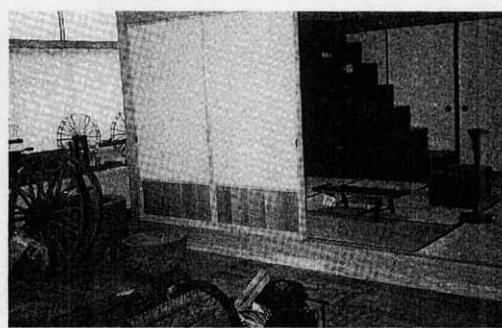
学区の自然や史跡などが手に取るように分かるミニ博物教室。



▲ ふるさと教室（六ッ美中部小）

学区のお年寄りを招いて、わらじ作りや竹細工に挑戦。

郷土を知る



▲ 郷土資料館（広幡小）

貴重な民具・農具など千点近くが収められている郷土資料館。



▲ パソコン教室（美川中）

学習の効率化、個別化を図る市内最初の本格的パソコン教室。



▲ 生活科ルーム（連尺小）

2教室分の広さでタイルカーペット敷き、和室も併設してある。



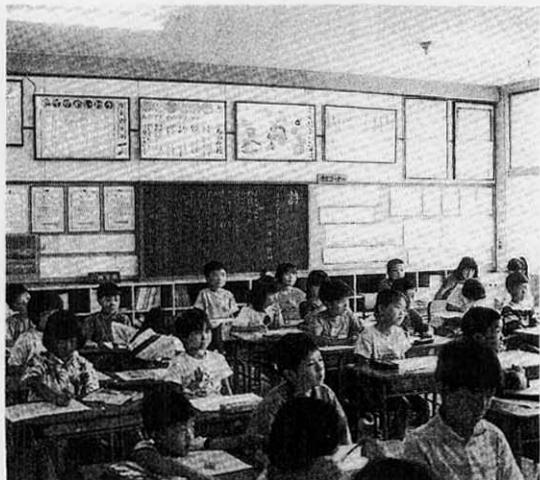
▲ 印刷教室（葵中特殊学級）

紙書きから印刷までプロ顔負けの技術で名刺などを印刷。



▲ オープンスペース（常磐東小）

多目的に活用。父母が紙芝居を見せることもある。



▲ 作文教室（緑丘小）

二つの作文教室。ここへ来ると作文のタネがいっぱいある。

学習に生かす

「第二図書室」「会議室」「資料室」「児童会室」など、特別教室をもうひとつ増やすという形で転用している場合が多い。余裕教室を積極的に活用していかなければならないという意識も生まれつつある。

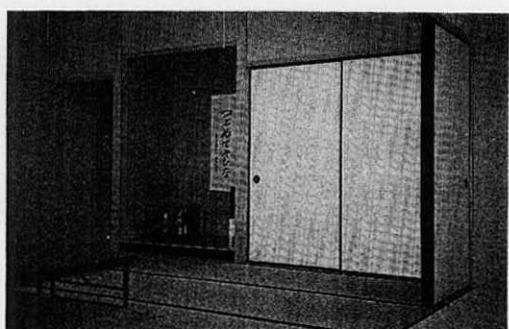
生活科室を作り、いろいろな制作活動をしやすくしたり、子供たちが集めてきた素材を保管する場所を作ったりしている学校もある。また、研究テーマに合わせ、特色ある教室作りに取り組んでいる学校も多い。

しかし、実際はその対応が遅れがちで、倉庫代わりになっている場合も少なくない。

これからは、「余裕教室」を授業に結びつけて活用するためいろいろな工夫が望まれる。

今回は、余裕教室の活用、並びに特色ある教室を紹介した。

個を伸ばす



▲ 和室（広幡小）

30畳の広々としたスペース。茶道クラブなどが使っている。

・表紙写真
・表紙詩
・カット

矢作東小
葵 中

勝田秀明
伊豫田万里子
金澤一幸



男川小林和泉氏藏

雲にかがやく 竜城の
青葉の嵐 仰ぎ見よ
國に築きし 先傑の
勲は高し この力

七五調の美しい響きを持った
岡崎市歌は、作詞・北原白秋、
作曲・山田耕筰によるもので、
昭和十二年市議会で議決された
ものである。

現在の市歌に至るまでは、
三回の制定がなされている。
第一回の市歌は、大正五年の
市制施行に際して、東京音楽学
校教授鳥居忧氏によつて作られ
ている。その後、昭和十一年市
制二十周年にあたり、市歌の改
制である。

格調高く、力強いこの市歌は
私たち岡崎市民の意氣を大いに
高揚させてくれる。

定が企画され、岡崎中学校教諭
と岡崎師範学校教諭が依頼され
作詞、作曲をしたが、不採用と
なる。翌年、現在の市歌が誕生
した。

ここに紹介するガリ版刷りの

「岡崎市歌」は、表紙は黒い紙
に金文字で「岡崎市歌」と書か
れ、余白に「市章」が金で印刷
されている。中には、ガリ版刷
りの伴奏付きの市歌と歌詞が載
つている。

岡崎市歌は、昭和三十七年の制定と思
われていたが、今回の取材でもつと歴史
のある歌であることが分かった。しかし、
自筆楽譜を見ることはできなかつた。現
在行われている市歌の前奏は、第三者に
による創作である。本来の前奏が發
見されることを願わざにはいられ
ない。

自然の香り、フイントンチッド。
揮発性の物質で殺菌作用もあると
いう。森の中のさわやかな空気、
緑の視覚や自然の開放感、そして歩くと
いう適度な運動効果などの相乗効果がス
トレスの多い現代人に人気をよんでいる。
夏の暑い一日、家族そろつて緑濃い森
の中で森林浴はいかが。

朝顔につるべ取られてもらい水
人が自然と協調することで潤いを
持つのは、今も昔も変わりはない。
水平線を久しぶりに見た。つか
の間の伊良湖岬へのドライブだ。
ゆるくカーブを描きながら左右へ
広がる水平線は、私にあたかも凸レンズ
の内側へ入り込んだよう錯覚を起こさ
せた。あの水平線の向こうにも更に海が
広がる。自然の大さに包まれて、しば
し安らぎの時であつた。

シ
ス
オ
ア

岡崎市歌



*二十世紀を動かした思想家たち	ギ・ソルマン
新潮社	¥1300
*心に豊かさを	浜尾 実
中央出版社	¥ 980
*父性原理と母性原理	河合隼雄
第三文明社	¥1400
*甘えの原理	加藤諦三
大和出版	¥1030

*それでも親か	稻葉 修
ごま書房	¥1300

今、人々は、経済的・物質的な豊かさ
の歪みの中で、生き方・考え方・心のあ
りようを様々に模索し始めている。

元文部大臣・法務大臣の著者が「21世
紀に向けての遺言のつもり」で、親の在
り方・躰の根本を提言する。

豊かな心をもつ人間を育てるために、
親として何をしなければならないか。著
者の豊かな人生経験と広い見識、小気味
よい文体の中から、我が国風土に育まれ
た21世紀の人間像が見えてくる。